

い。同定ラベルは後生の人間にとって極めて役に立つことは間違いない。

また、予算の縮小は博物館においても例外ではなく、現状では館の予算の多くを展示のための費用と、バックヤードを含めた施設の維持管理費用が占める。今のところ当館では収蔵庫の空調を夜間のみにすることなど（温湿度に大きな影響が出ないことは確認済み）、大小様々な節約を行っている。なお、当館での菌虫害対策は燻蒸と侵入状況調査による。新規受け入れ標本、また収蔵庫から出した標本については殺虫・殺カビの燻蒸を行っている。全館を対象とした粘着トラップ調査を年に2回実施し、害虫の侵入状況を調べている。

利用について

研究目的の利用については国内外問わず幅広く受け入れている。他館でも同様と思われるが、収蔵庫には「標本」として思い浮かべられるものだけではなく、利用者の未発表標本（データ）や、希少種の詳細な産地データが収蔵されている。また、時には今後の展示で目玉として用いるため、戦略的に公開する予定の資料が置かれている場合もある。そのため、希少種データ目的の侵入や、何気ない一枚の写真であっても SNS などの勝手な流出はまずい。かといって、それを杓子定規に適用し、利用者の便を妨げたり、利用者の背後で私が仁王立ちし続けたりする訳にもいかない。そのため、論文業績の無い利用者や学生などによるタイプ標本借用や自由な標本の閲覧などは、指導教官などの保証人を必要とする場合がある。いずれにせよ学術研究目的の借用は、研究実施能力が論文などで示され、（標本に関する）悪名が高くなく、目的

がしっかりしていれば反対する職員はいない。

一方、展示目的の借用については、標本の破損や劣化のリスクが伴い、かつそのリスクが標本を貸し出すことによる当館のメリットを上回ることが少なくない。そのため、個体数や種によるもの、当館から借用しなければならない理由と目的が明確でない場合は、お断りさせていただくことが多い。

おわりに

標本の収集と保存は博物館の本質であり命である。標本の数と質は知識のようなもので、引き出しがあればあるほど、打てる手が多くなり、様々な場面へ応用が可能になる。加えて資料の収集・保存は一代限りのものではなく、世代を超えたものである。今あるものを有効に使うことは重要であるが、今あるものに乗せして次に残さなければ、先代の資産をただ食い潰した二代目社長になってしまう。当館は収蔵庫と新展示場の必要性を常に主張しており、「今は」当館の標本庫は満杯ではあるものの、これからも手を尽くしていきたいと考えている。

引用文献

- 蓑島悠介, 2014. 北九州市立自然史・歴史博物館の紹介. 昆虫と自然, 49 (2): 27-30.
 中島 淳・井上大輔, 2009. 行徳コレクションにおける福岡県産水生甲虫の記録. ホシザキグリーン財団研究報告, (12): 315-322.
 高倉康男, 1989. 福岡県の甲虫相. 526 pp. 葦書房, 福岡市.
 上田恭一郎, 1997. 「ママ、でもこれ小さい!」— 一生き虫輸入展示願末記—. TSUIISO, (902): 1-13.

(2019年9月1日受領, 2019年10月1日受理)

【短報】「山梨県におけるコガタガムシの生息状況 (岩田ほか, 2019)」の誤記の訂正と、本亜種学名の表記に関する覚え書き

本誌 33 号 p. 35-38 に掲載の表題の報文において、以下のとおり、本亜種の学名の誤記を含む 4 点の誤りが見つかったため、これらを訂正する。著者を代表し深くお詫び申し上げる。

また、この機会に各種文献を調べた結果、コガタガムシの亜種名と命名者、記載年について、いくつかの異なる表記のものが見られたため、覚え書きとして以下の 1. 2. の項に示した。

訂正に際してご助言を賜った林 成多博士（ホシザキグリーン財団）、本稿をお読みいただくとともに文献等の入手に多大なご助力のあった蓑島悠介

博士（北九州市立自然史・歴史博物館）、投稿時に多くの有益なコメントをいただいた保科英人博士（福井大学教育学部）に深謝する。

1. p. 35 コガタガムシ亜種名

“*cashmirensis*”と表記の文献（例えば、Bedel, 1891; Kuwert, 1893; Régimbart, 1902; d’Orchymont, 1932, 1934; Satô, 1965; 中根, 1970）と、“*cashimirensis*”と表記の文献（例えば、佐藤, 1985; 九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター（編）, 1989; 環境省（編）, 2015; 佐藤・吉富, 2018）が見られるが、Kollar & Redtenbacher (1844) の原記載、Hansen (1999), Fikáček *et al.* (2015) および Przewoźny (2019) に基づき、“*caschmirensis*”と訂正

することが妥当と考える。

誤記) *casimirensis*

訂正) *caschmirensis*

2. p. 35 コガタガムシ命名者および記載年

“Redtenbacher, 1892”と表記の文献(例えば, 中根, 1970; 九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター(編), 1989; 環境省(編), 2015)があるが, この記載年は誤りである。“Redtenbacher, 1844”と表記の文献(例えば, Bedel, 1891; Kuwert, 1893; Régimbart, 1902; d'Orchymont, 1932, 1934; Hansen, 1999; 佐藤・吉富, 2018)が古くから最近のものまで見られるが, ここでは原記載に従い“Kollar et Redtenbacher, 1844”と訂正することが妥当と考える。なお, Fikáček *et al.* (2015) および Przewoźny (2019) でも, 命名者は連名で表記されている。

誤記) Redtenbacher, 1892

訂正) Kollar et Redtenbacher, 1844

3. p.36 表1「葦崎市 A」の採集月

誤記) 6月

訂正) 7月

4. p.37 シマゲンゴロウの種小名

誤記) *bowrngii*

訂正) *bowringii*

引用文献

- Bedel, L. 1891. Synopsis des grands Hydrophiles (Genre Stethoxus Solier). *Revue d'Entomologie*, 10: 306–323.
- Fikáček, M., R. B. Angus, E. Gentili, F. Jia, Y. N. Minoshima, A. Prokin, M. Przewoźny, & S. K. Ryndevich, 2015. Hydrophilidae. pp. 37–76. In Löbl, I. & D. Löbl (eds.), *Catalogue of Palaearctic Coleoptera, Volume 2, Hydrophiloidea – Staphylinoidea, Revised and Updated Edition*. 1702 pp. Brill, Leiden Boston.
- Hansen, M., 1999. *World Catalogue of Insects, Volume 2, Hydrophiloidea (Coleoptera)*. 416 pp. Apollo Books, Stenstrup.
- 九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター(編), 1989. *日本産昆虫総目録*. 1767 pp. 九州大学農学部昆虫学教室, 福岡.
- 岩田泰幸・富樫和孝・中村 涼・高野雄一・岩田朋文, 2019. 山梨県におけるコガタガムシの生息状況. さやばね ニュースシリーズ, (33): 35–38.
- 環境省(編), 2015. *レッドデータブック 2014 日本の絶滅のおそれのある野生生物 5 昆虫類*. 511 pp. ぎょうせい, 東京.
- Kollar, V. & L. Redtenbacher, 1844. *Aufzählung und Beschreibung der von Freiherrn Carl v. Hügel auf seiner Reise durch Kaschmir und das Himalayagebirge gesammelten Insecten*. pp. 393–564. In Hügel, C. F. von. (ed.), *Kaschmir und das Reich der Siek. Vierler Band, Zweite Abtheilung*. pp. 244–586 [1844], 587–865 + [6], 1 map, pls. I–XXVII. Stuttgart: Hallberger.

Kuwert A., 1893. Die grossen Hydrophiliden des Erdballs des Genus *Hydrous* Leach. *Deutsche Entomologische Zeitschrift*, 1893: 81–93.

中根猛彦, 1970. 日本産ガムシ類目録. *昆虫と自然*, 5 (5): 25–29.

d'Orchymont, A., 1932. Résultats scientifiques du voyage aux Indes orientales néerlandaises de LL.AA.RR. Prince et la Princesse Léopold de Belgique. *Hydrophilidae. Mémoires du Musée Royal d' Histoire Naturelle de Belgique, Hors série IV*, 4: 35–38.

d'Orchymont, A., 1934. Aquatic insects of China. Article XX. *Catalogue of Chinese Palpicornia. (Order Coleoptera). Peking Natural History Bulletin*, 9: 185–225.

Przewoźny, M., 2019. *Catalogue of Palearctic Hydrophiloidea (Coleoptera)*. Internet version 2019-01-01. (2019年4月28日参照) (http://waterbeetles.eu/documents/PAL_CAT_Hydrophiloidea_2019.pdf)

Régimbart M., 1902. Revision des grands Hydrophiles. *Annales de la Société Entomologique de France*, 70 [1901]: 188–232, pls. 7–8.

Satō, M., 1965. Some aquatic Coleoptera from Formosa, I. *Special Bulletin of Lepidopterological Society of Japan*, (1):126–129.

佐藤正孝, 1985. ガムシ科. 上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝(編), *原色日本甲虫図鑑 II*, pp. 209–216, pls. 38–39. 保育社, 大阪.

佐藤正孝・吉富博之, 2018. *コウチュウ目(鞘翅目)*. pp. 707–790. 川合禎次・谷田一三(編) *日本産水生昆虫 科・属・種への検索 [第二版]*. 1520 pp. 東海大学出版部, 平塚.

(岩田泰幸 160-0022 新宿区新宿 2-1-8

(公財)文化財虫菌害研究所

E-mail: laccotrepes_1874@yahoo.co.jp)

【短報】オオチビマルハナノミを滋賀県近江八幡市安土町で採集

オオチビマルハナノミ *Yoshitomia beattyi* (Pic, 1918) を滋賀県近江八幡市安土町下豊浦織山の山麓にある湿地で採集したので報告する。本種の同定には, 2017年5月京都府宇治市木幡池で採集したものと比較した(伊藤, 2014; Yoshitomi, 2005; Klausnitzer, 2013; 吉富, 2015)。以下, 採集者は全



図1. オオチビマルハナノミの生息する湿地(滋賀県近江八幡市)。